「北陸サイバーセキュリティセミナー2026」を開催

総務省北陸総合通信局（局長 安東 高徳）及び北陸セキュリティフォーラム（ICT研究開発機能連携推進会議セキュリティ人材育成分科会（分科会長 向井 宏明 金沢工業大学 教授））は、北陸情報通信協議会（会長 金井 豊 北陸経済連合会会長）との共催により、令和８年９月３０日（水）にTKPガーデンシティPREMIUM金沢駅西口にて「北陸サイバーセキュリティセミナー2026」を開催し、８０名が参加しました。**（プログラムは右下）**



開会挨拶
北陸総合通信局
安東局長

最初に、「AIとサイバーセキュリティの接点：最新動向と今後の展望」と題して、早稲田大学理工学術院の森教授からご講演いただきました。森教授は、AI時代のセキュリティについて、「対象がデジタル領域だけでなく物理領域にまで拡大した現在では、AIを守る観点（Security for AI）とAIで守る観点（AI for Security）だけでなく、AIの逸脱や暴走への対策も考える必要がある」と指摘し、AIの活用にあたっては、「Human-in-the-loopの設計により最終判断を人間に残しながら、設計段階からAIリスクを念頭に置いて安全性を確保していく必要がある」と強調しました。

続いて、「サプライチェーン強化に向けたセキュリティ対策評価制度（SCS評価制度）と中小企業支援策」と題して、経済産業省サイバーセキュリティ課の金井補佐からご講演いただきました。金井補佐は、中小企業等を狙うサイバー攻撃が増加し、サプライチェーンにおける適切な対策が必要となっている状況を踏まえ、「適切な対応とその可視化のため、経済産業省ではSCS評価制度を構築するとともに、中小企業等向けに様々な支援施策を用意している」とのご紹介がありました。



閉会挨拶
北陸セキュリティ
フォーラム
向井分科会長

最後に、「サイバー空間の脅威について」と題して、石川県警察本部の田畠補佐からご講演いただきました。田畠補佐は、近年のサイバー犯罪について、AIを悪用したサイバー攻撃や製造業、医療機関を標的としたサイバー攻撃も増加しており、その大半が海外からの不審アクセスであることを報告し、「サイバー犯罪に対しては、国際連携や産学官連携による対応のほか、攻撃者の手口を知りリテラシーを向上させることが重要である」と注意を呼びかけました。

今回のセミナーでは、有識者・行政・警察のそれぞれの視点からのご講演により、参加者は、サイバーセキュリティに関する知識向上と実践的な対策に対する認識を深めました。



セミナー会場の模様

セミナープログラム

開会挨拶
総務省 北陸総合通信局 局長　安東　高徳

講演1　AIとサイバーセキュリティの接点：最新動向と今後の展望
早稲田大学理工学術院 教授　森　達哉　氏

講演2　サプライチェーン強化に向けたセキュリティ対策評価制度（SCS評価制度）と中小企業支援策
経済産業省 商務情報政策局 サイバーセキュリティ課
課長補佐　金井 貴大　氏

講演3　サイバー空間の脅威について
石川県警察本部 サイバー犯罪対策課
課長補佐　田畠　邦弘　氏

閉会挨拶
北陸セキュリティフォーラム（ICT研究開発機能連携推進会議セキュリティ人材育成分科会）
分科会長　向井　宏明　金沢工業大学 教授

【お問合せ先】 北陸情報通信協議会事務局
電話　076-233-4421